

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ⑬

難波湫
短き蘆の
ふしの間も

わびぬれば
今はたおなじ
難波なる

逢ひ見ての
のちの心に
くらぶれば

嵐吹く
三室の山の
もみぢ葉は

寂しさに
宿を立ち出でて
ながむれば

夕されば
門田の稲葉
訪れて

昔はものを
思はざりけり

いづこも同じ
秋の夕暮れ

みをつくしても
逢はむとぞ思ふ

逢はでこの世を
過ぐしてよとや

蘆のまる屋に
秋風ぞ吹く

竜田の川の
錦なりけり